

ワカメ自動間引き装置の開発

技術の概要

■ 間引き作業の現状と課題

1月ころに養殖網に生えたワカメを一部刈り取って、ワカメの生育に適した密度にする作業です。
この作業により生長がよくなり、大きなワカメを収穫することができます。

➢ 小型漁船で前かがみの姿勢で作業するので、体への負担が大きい。

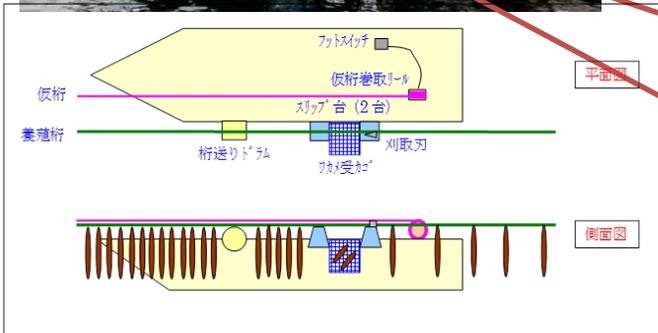
⇒ 労働環境の改善や省力化が課題となっています。



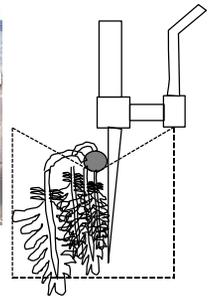
■ 「自動間引き装置」を開発しました！



養殖桁と平行に張った仮桁（ロープ）をリールで巻き取ることで、養殖桁を海中から引揚げ、移動し「後部スリップ台」に取り付けた刃でワカメを間引きます。



刈取り刃の当たった側面のワカメが刈り取られます。



期待される効果

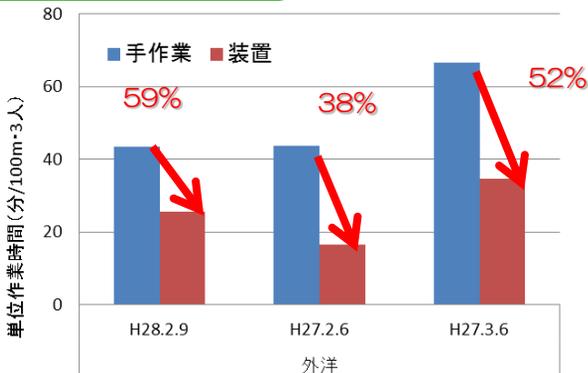


図 施設100m間引くのに必要な作業時間

この装置を用いることにより、
⇒作業時間が4～6割に削減！
⇒楽な姿勢で作業ができます。

【お問い合わせ先】 岩手県水産技術センター企画指導部 TEL 0193-26-7914

当該技術は農林水産省委託事業「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」の成果です。